

平成 26 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立海老江東小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本校の運営の計画の 4 つの視点に立った **a**～**j** の 11 項目の目標内容は、本校の児童の現状をしっかりとらえた「知・徳・体」の育成の観点にそったものであり、本校の教育活動を進めていく上で最も重要なものである。

中期目標達成に向けての 2 年目にあたる本年度の結果は、新たに加えた 1 項目を加えた 11 項目中、9 項目で達成(達成率 82%)、未達成が 2 項目であった。中期目標達成に向けて概ね順調に推移しており、確実な成果を上げている。学校の日々の取組みと教職員のご努力に感謝するとともに、さらなる向上をめざしてほしい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：視点 1「学力の向上」

a 平成 25 年度の全国学力・学習状況調査における国語の主として活用の問題の正答率を全国平均並みに向上させる。※H24：本校 53.5 全国 55.6 **達成** (カリキュラム改革関連)

a-1 英語活動を通して、コミュニケーション力がついたと感じる子どもの割合を 50%以上にする。**達成** (カリキュラム改革関連)

b 児童一人当たり 1 日の家庭学習の時間を 1.1 倍の 50 分にする。**達成** (カリキュラム改革関連)

c 家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年応じた自主的な学習の仕方を理解させる。学校アンケートで「自主学習の仕方がわかった」の割合を 70%以上にする。**達成** (カリキュラム改革関連)

d 学校アンケートで「家で学校の予習・復習をしている(どちらかといえば、している)」の割合を 70%以上にする。**達成** (カリキュラム改革関連)

○国語 B の平均正答率が目標を上回り、全国より 7 ポイント以上上回っており日頃の取組みの成果が出ている。

○ほんとにすごいと思う。特に、白紙(無回答)の答案がないのがよいと思う。書くことは、読み込まないとできない。問題にきいていけるかどうかである。基礎力もある。このように指導する先生方も大変だが、よく頑張ってくれている。とてもよいと思う。この海老江東小学校は、学校も親も頑張ってくれている。

○先生の学習指導が大変ですが、一層の努力し頑張してほしい。

○中学校としては、小中の 9 年間のスパンで子どもを育てていくことを大事にしている。中学校でも学力において、全国平均より 4 領域全部で上回っている。特に、数学は、6 から 7 ポイント上回っている。これも、小学校から熱心に指導してもらっているおかげである。小学校の教育を中学校でもつなげて、社会に貢献できる人材を育成していきたいと思っている。

年度目標：視点 2「道徳心・社会性の育成」

e 平成 25 年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがある」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 90%以上にする。

※H24 本校：81% 全国 77.8% **未達成** (カリキュラム改革関連)

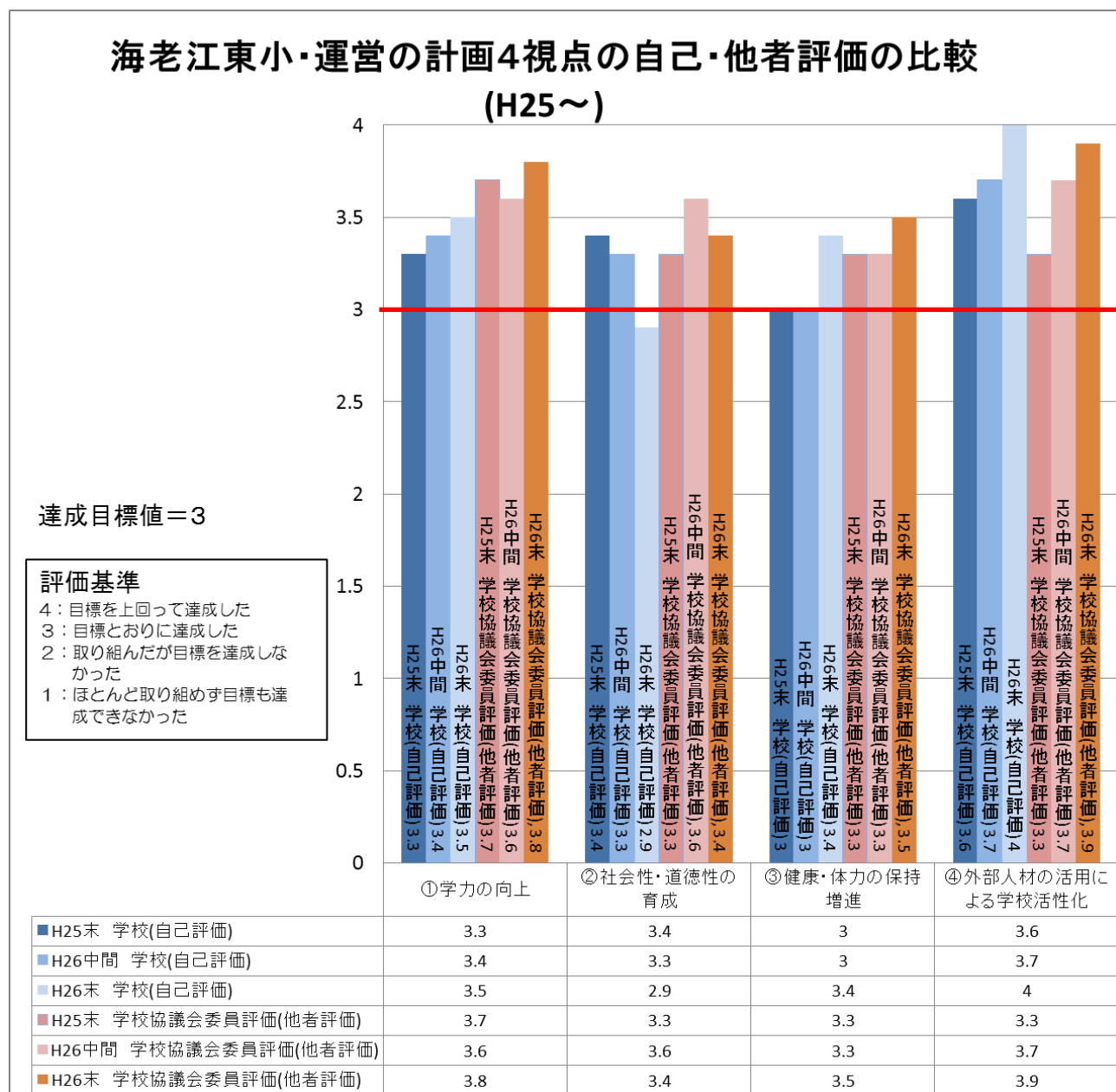
<p>f 学校アンケートで、「すすんであいさつをしている（どちらかと言えばしている）」と答える児童の割合を８０％以上にする。 達成 （カリキュラム改革関連）</p> <p>g 学校で認知した「いじめ」について、解消に向けて組織的に対応している割合を１００％にする。 達成 （マネジメント改革関連）</p> <p>○「自分にはよいところがある」項目の目標設定９０％以上は、かなり高い値であると思う。</p> <p>○昔遊びで学校に行って関わっているので、子どもたちが登下校するときに、名前を言ってあいさつしてくれる。とてもうれしいし、いい教育をしてくれていると思う。</p> <p>○あいさつをしてくれる子どもが増えている。</p> <p>○子ども会で、土曜日・日曜日に関わっている。そのとき、宿題をやっているか？聞くようにしている。今の子は、８割程度やってきている。また、仲間同士声をかけ合っている。子ども会も相手の気持ちに立って声掛けをするように指導している。</p>
<p>年度目標：視点３「健康・体力の保持増進」</p> <p>h 平成２４年度の体力テストの各種目の結果を分析し、弱点を補う運動を考案し、児童が平素から体力づくりに取り組める環境づくりを行う。 未達成 （カリキュラム改革関連）</p> <p>○体力合計点が全国を上回っているのは、学校の取組みの成果である。素晴らしいと思う。</p> <p>○ゲームにはまってしまわぬように、学校から子どもたちへの注意喚起がいると思う。</p>
<p>年度目標：視点４「外部人材の活用による学校活性化」</p> <p>i 平成２４年度の地域人材活用数を１．５倍にして子どもの体験活動の場を増やすことで、「体験が将来に役立った（どちらかと言えば役立った）」の割合を８０％以上にする。 達成 （ガバナンス改革関連）</p> <p>※Ｈ２４本校地域人材活用数：３２名</p> <p>j 平成２４年度の学識経験者人材活用数を２倍にして教職員の研修の場を増やすことで、「授業や指導に役立った（どちらかと言えば役立った）」の割合を８０％以上にする。 達成 （学校サポート改革関連）</p> <p>※Ｈ２４本校学識経験者人材活用数：３名</p> <p>○地域の教育力は高い。小中学校でさらに人材を活用できたらと思う。</p>

３ 今後の学校運営についての意見

<p>○子どもたちに、親への感謝の文章を書かせてほしい。それを、地域の新聞に載せていきたい。</p> <p>○今まで通り、学校と家庭・地域が力を合わせて子どもを育てるという方針で今後もお願いしたい。</p> <p>○教職員の皆さんが頑張っていると思う。</p> <p>○モジュールタイムでの英語活動、ＩＣＴの活用など新しいことを取り入れたり、現状を強化したりすることを考えながら取り組んでいると思う。</p> <p>○子どもたちのことは学校だけに任せるのではなく、保護者ももっと協力して話し合うことも大切だと思います。家庭にできることがあればどんどん発信してほしいと思う。</p>
--

4 運営に関する計画の平成26年度末自己・他者評価の比較

学校教職員評価(自己評価)と学校協議委員評価(他者評価)を4段階(4：目標を上回って達成した 3：目標とおりに達成した 2：取り組んだが目標を達成しなかった 1：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった)で評価した平均点を下のグラフに示した。



第3回学校協議会において、学校長が運営に関する計画の視点4つについて、本年度末の進捗・達成状況とそれに伴う教職員の自己評価について具体的な数値を示して説明を行った。各協議委員から意見をいただいた後、4つの視点について「目標を上回って達成した＝4 目標どおり達成できた＝3 取り組んだが目標を達成しなかった＝2 ほとんど取組めず目標も達成できなかった＝1」として4段階(中間点あり)で評価していただいた結果が上のグラフである。

概ね「目標を達成できた：3」の評価を上回っているが、「外部人材の活用による学校活性化」については、高評価を得たものの学校の自己評価より関係者評価が0.1ポイント下回っている結果となっている。